

# 海防彙議補

三

					和書門
			八	九	
			一	三	
			二	五	
			八	九	
冊	架	函	號	類	

庫文閣内					和書
			八	九	
			二	三	
			九	五	
			二	八	
架	冊	號	類		

内閣文庫	
番號	和 8935
冊數	28 ( 15 )
函號	189· 393



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

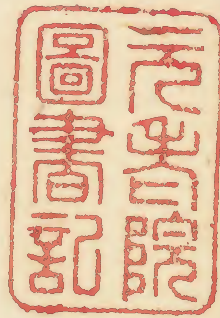
Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak







海防彙談補卷三

塩田泰順菴編纂

捕影問答

一名伊程  
刊須疑問

或曰曰いきりれといふと地名のよし是迄舶来の所ふいきりす物と唱  
ふれしは知れりは地何處の方角ある國あるや昔と 本邦へ傍り  
来り 根も承傳へり 又近來愛りしは浦漂忌せりといふは  
多くいきりすとといふをもしはるや女子は事あるを詳ふ者よ



昔曰論の如く地名多く昔と和乃 河津しといふは彼不  
成下されし御朱下ふと伊祇利須と書やふといふは名ハアガヤ







平戸集津也との案に其の長七十年即来下りしと述べて由ありと曰  
付多し一は國々其の長十七年壬子より平戸船を来しとて交易を曰  
十八年の秋國々始て書紙持て中返書とありとて八月廿日江戸へ  
朝見秋上りてと程と紙十下努一張象昭入秋炮二挺遠目鏡長七  
尺六寸と六日夕廿二九花火を立入上流三の事とを曰十九年又使来  
元和二年八月廿日又々条力即来下成下りともあり

同日の案に於今使来と云ふ伊祇利須と来りて何と云あり  
事少や

言曰の案に百有餘年来船運停り伊祇利須ハ其後年々  
使来せし一は交易利潤少き由て元和七年小彼より辭し來ぬ

るとあり一は物多末より三十二年の程と云見又十二年元和  
元年

月伊祇利須取を禮来津に是に比丹セルモンケルホウ再の案  
能の為下来り一は小はなとわが事少やと付ては白後使海の日

永くは止とあり七月廿六日仍悦せりと程志の止まりと云々  
後其年を記して國の使を我船一の書翰をおく暹羅即天竺  
我船列の

舟子法を傳ふる來りては使を託し日本へ付運をき由の少はとれ  
往來の地ありと云々

とも記せば是れ元禄元年の事と云々又宝永五年暹馬を  
送りて後野久島へ来りし一は國の取ありしと云々

同日使来と云ふ一は浮忌武を新水を乞ふ者として船が多きと云々  
一は國の船少き由と云々の事いふと云々







五人船乗少く磁と云号小を脱少く野公十五六舟由い  
海一岸ほも水大赤込捕帯由一後大島し水方と下之水  
船中船乗を磁一舟至白き木原を長く引く一水源より赤  
種少く船乗一水と死中由漁船を招き一艇書を贈り中船  
取是紅毛と云しは先紅毛と云ふおんてムスゴヤシロヤの船と  
おんて横文字も有るは本年本取是アメリカと記すし書面を  
一振おねえ中の積荷物洞茨火砲五十と云し船中船乗三人  
船工波舟由一おんて漁人ものんを船乗は先怪妻不の  
ふし無しは船と云し咄日晚火砲三十七も放し後原をり来り  
中い方おしは船方し船者日役とも有人船載り地士二十人運

素がく船乗六日に出帆渡くるる合ふは何れ小船中く大砲を  
放し船乗船乗も中根と云しやし世間を足積りし船と云し  
紅毛人も又七人中華人も又人江黒坊二七人江赤舟中の船乗も  
ムスゴヤの船乗二方と云しは先美人の通一河と云しは右を脱をい船乗  
を打れ水船乗を船乗中の船乗も一船乗を船乗もあしと云し  
こや船乗は先年又及り紅毛船と云しは右の船乗は怪妻事  
そしは先船乗中船乗紅毛人と  
そしは先船乗中船乗紅毛人と  
四月十日大坂未状  
先月廿七日南風上長徳肥大島浦横一船と云しは先船乗二艘原  
船乗也浦口金山と云しは先船乗元取大甘を先船乗は先方



六百石積位帆柱三本て人まし船に被有るゝ新水松石上下  
 中し山よりゆい方し人よりさうしくおえやし船中熟れ御  
 山おえ、由小物のめきもの海中へ入るゝ魚は捕せし由人物衣  
 老ハ大方黒糸惣髮とおえ、記お大隆勅し由内邦代中月  
 付元返く大島浦へ流るゝ由括お短書字  
 本船乃是紅毛船地名花其載貨物乃是銅鑊及  
 火砲五十員在中華国赴皮草国而去無経貴地  
 偶遭風浪漂流至此在貴地不過三五日之間不  
 好而在此好風即日去此本船人員百口貨物實  
 是銅鑊並無別物船主堅徳力記

揚子江は是る江但唐人使過りものと又由紅毛船とを怪し  
 花共とハイカクア一和常のこび  
 の名皮草をヒツサヨとよみ地名のり  
 漂流して戻りし物も仍ありし  
 是るよりあゝ記お寄り一次の横文字の短書と見れ

む伊初利頂あり

伊ヨニ  
 John Rowbridge 本ニマニテウニ  
 The Perry Jang 本ニスロニダ  
 Boston Bay 本ニエニケラニ  
 Fleet of America 本ニオニ  
 本ニオニ  
 本ニオニ

イキリス文解スヘカラス諸厄利亞奇語ノ書ニ就テ之ヲ重譯  
 スレハ左ノ如キヲヤト思ワル







小石松智一も怪一 船中をたれも全く伊祇利須あり 松おの加友  
 来と頗る魯西重語と知りてさうし 船中料理人小魯西重人  
 ありたり 通辨可なりお出来くして大田とてはしおたのしむ  
 ちや口実吾程汁且魯西重人 口船せし怪一とよし 船中料理  
 同来十月中旬房列長狭郡川下浦と云ふ所の二田平沖小吳船来船  
 も後亦殺被漕舟又さうし 彼人より魚取所屋の由あるをの魚  
 走しはれせぬ糖を踏り 横文のの小書舟を授くを字を見れと  
 イギリス文あり 武の之とを譯とれし フロビゲンセ 山アメリカの内の小島お  
ちのち ぶわり一官船あり 一千七百九十一年 我寛政三年 幸美ふち 十月十日 彼の日  
我十月 日本の地おまよふと云ふ又列一漁夫のゆる書舟あり

是示口以あれともそ又發船とて船とてしに船大橋上と目  
 あり又一漁夫のゆるめイギリス房の殘着しは船をアプタへ  
 送せりあり  
 同九年六七月の以至船底振作と通船一 下流飛子浦とて漁  
 船之候見掛ありしと又イギリス房殘着を舟中一投しと云ふと  
 又奥海あり漁人至船とてさうしとゆふり 是をエトモ来泊乃  
 往來するや心ありて廻船せしるありし 定ま往來の度と地  
 取方位發船を量りて海法の信易淺深且里記おとし測量  
 せしありし 一は國に公お務く 祝儀の程を究のそぬおし  
 徳密も彼船師とてわふとてさうしとて祝儀せきし











洋く西条件中より適不及大乱の事欲知所し為法高  
彼に我を被し志故多死失位傳不重一患より此  
持仕合を是兒和加比母平居ふりて成りてゆく

正七月

梅より今年の新取例年のめくをりてアメリカ船と云るは星野  
しんこもアメリカ人と稱せし由傳へはく船首小エリサオフ子ヨヨ  
ルと號せりアサと船の名オフとのあり子ヨヨルクと云墨利加  
例の一地名福尼利亞所なりと小エリサオフ即ち子ヨヨルクの事船  
の事ありしを船中何業陀人と云るは皆アメリカ人とト云

船取ステワルトも一人子ヨヨルクの事ありと云し由熱人教八族は人  
之右あるの何業陀人と稱しロイトモと云一人とシーゴッド、ステワルトハ  
彼船と唱し由あるをアメリカ人と稱しとステワルトの云  
ありと一ワツソ表向分料と稱し其ニシーモント其云スミットと云  
は此人の名イギリス向あり水夫と教士人モール人の由皆黒人あり是未衣  
是船より未因く是あり是又凡流書のみく何業陀國をイギリス  
子教員と印度の諸高彼も是業を去年ハ淡海より獲き此書  
あれ右ステワルトといふもの今年受留巴在留の業人小居く日本  
交易必仕合せし又列小るを格へ并極意の高彼よりアリ  
カ往來の有合の船より仕貨物を積入る國後利し勢といは日中一



ハ沃しるも人位不組で且に役す押と送りぬが取交す来り業  
船が船がー多る布合のアメリカ性来の取交用ひる多し本國の名  
と辭人としてよとあつたや必しんアメリカ人かあつた四人としイキリ  
ス人ありー水夫のモトル人も印舟柄這のまろろー  
榜首刺し  
大莫即兒  
の属か 本對怒ひーくやくよて実を押しゆくおせー 下ろね三東  
人かより之をきり 存るるろろー 我殺す死を掩ひ且  
彼り勢を吞せ止事をほさる文のめき 汎説書とすト之  
くと物つろ スラウルトまの記さりとつあ性事 和と足 小男なり 沈房好智也  
若と又由と再座の根よまじり ー 彼れ白熊也 ー とお交  
あつ日本東南海と 是全くイギリス人あり ー きりと進と物心と記せ  
ー 不害のー

又揚ふをん八年よととまきーくイギリス船我艦去地アプク(朱池)ー  
九分豊の沖よと英船又(東海)し又(ー)と之と怪(ー)と(き事)ー  
奪すあつた又を三九年ハ茶ふふなく日國の船艦去地ア下モ(忘)と  
又思ひ合を事かりあり

寛政九年丁巳九月七日對あふし内届

去八月廿四日夜中船砲臺山浦と中と英國船を破る迄の事  
口廿五日船船小分位船船同情付れ之所ハ固ハ一様文やあふ  
画(一)の事(一)日教七日程(一)お加(一)は(一)た(一)出(一)帆(一)は(一)供(一)さ(一)し(一)  
十六日(一)小(一)さ(一)午(一)あ(一)他(一)人(一)殺(一)さ(一)勢(一)之(一)神(一)筋(一)骨(一)違(一)く(一)顔(一)色(一)不(一)幸(一)以(一)被(一)志(一)  
を被(一)一(一)衣(一)被(一)矣(一)の(一)法(一)公(一)志(一)一(一)種(一)色(一)赤(一)玉(一)又(一)青(一)色(一)し(一)根(一)の(一)取(一)り(一)の(一)







十月

梅子の服表地工トモノ忌辰の正ナレズ船七枚船あり同年の年小  
く月日し等々右ノ右船取も似つるハ

一 尚月十五日在船少以月日浦を足嶽と申し仲地方より  
一 重征し不果後上船取艘マニテ不果格別大船ナキ足價  
種は不登以分海上を戻し和蘭ニ去見取らふりり回船先不  
お見り石同取右近所獨浦と申し仲地方南り大同を以設  
取一山谷に深く寄りてお望み十ハハ明方ニ取るとして外  
中程後ニ去見取下弁下別以候ニ寄るも右ノ果面  
何方へ通し船は不登も七時海上と候は木一向不登足山申表の

九月

梅子右書方の取と取艘マニテ不果と申し以不果登山浦一  
表油也難取らふ一以是の地海は足積り一思ひやれ  
汁漬りあり是あ冬ハ候とを考ふト必イキリス船あり一  
日十年戊午六月十日去年の如き船も傍入津ニヤカタラは出り  
去年の由清書し指余アメリカ人と云ふの上京一ニ為り船以申上  
ステ兄トモオシーモトホラム商人水夫と云ふ年の通のモル人モ同  
りの尤多りい船に乗陸人と云ふ人も亦多し

風況書

一 左来り上ノ通急は建れ困り大星を扱しは重陸押家及合致



一 南年ハ新ムシノ入テ居リ交代ニ在リテ其ノ後紀去年ノ下道中  
ハ御印印迄迄迄高船ノ向キ御事共暮カリ御軍防ノ為法  
高彼ノ高船形被取ルモ未ヨ國ニ在ル所カビノ人被シ  
今トモ受唱吧表ニ在合ニ御事共是元南年ハカビノ人被  
下ノ一 役人共をがうとくあうれむらん  
ハ年ハ南年人モ人モ来リテ御事を怪む一  
梅ノリ是スナルト船モ去年ノ如クお對モ来ると是ハ是全  
クイキリス人モイキリス人モ来リテ一トモ不富ノ二  
ハ船十月ヨ帆ノ良非時沖モ沈船ガ多ク曳揚ルモ又凌  
入候所モカク聖十一年己未四月ヨ帆在三中九吹打候

高ヤク送風モ去年ノ吹戻ヤ一由依テ再ハ候所モカク日年

秋出帆一ノ業院船ノ二ヨ出帆

日十一年己未小船モ被捨一人来リテ渡来ハ年ハ業人ハコレシキト云  
既ヨリキモ人モ解ハ船既初免候モモアメリカ人と云フモ船モアメリカ船  
トモ去年一ヨ帆モ存モカレメノノ事トモ高彼ノムシノ一ニ言フモモセ  
トモ不富ノ一 役物モカレ候モモトモヨ帆梅ノ不是又お對モ  
業人モ人モ御事共イキリス人モ一トモアメリカ船  
アメリカ人と云ハ俗稱ナリ一トモ不富ノ三  
同三年庚申四月ヨ小船モ津浦船既入テ兄ト業人ノ人モ業  
船モ一トモ不富ノ一トモ去年ヨ帆モカレ候モモトモ又既風モ達



終り彼取手但人殺斗増舟さく物名殺及の終船ニヤカカテ  
沢おくホル子ヨリ船を備お庭く貨物積入舟り由ニヤカカテ仕出  
一ホモくも加比丹船く上秋中系船長津と水免る梅るイ  
けステルトリを怪む一矢張京後地方イギリス不似し國を仕出せり  
一是不富の也

同年秋の系船取本津取ハ不測アメリカ船多し加比丹船ニテ  
既スミット度ニ来り介ニ系人にも人ありモ船ハ水夫とアメリカ人ニ思合  
おとありと梅ふけ時又ハ系船伊福利須右對の上系但来るる船  
こ上港く船合と来るや主對の船なるや是不富の也  
享和元年辛卯の系船取ニ被来津一被ハ不測阿系船人ニ被

ハ不測アメリカ人より船を不測アメリカ船多し梅ふけ年の風況書失  
はるのよありくゆにアメリカ人と云ふ無強イギリス人より一是不富の也  
日二年庚午の系船取入津阿系船アメリカ船但梅ふけ年の風況書  
是ハ一社又書を欠く字合とシトモ是又伊福利須右一は是不富  
の也

日二年癸亥七月六日入津阿系船取風況書  
アメリカ船の内バルテモトルと云ふ船は借候嶋也より仕出し船  
取ヤアシテアレ  
梅るイ一阿系船人アメリカ船は借交来る一と云ふの時を始と云ふ  
は船イギリス船少くも國人阿系船人を載来り入津せりも船イ



バルモールと云因英地の全書を考つる不亞墨利加海中にて名又を  
イギリス國と云ふかてつものモイイルラニク思而蘭太といふ内小島等々地ふ  
バルモールと云港と云ふくいは所の形を人々志のハアメリカ海内  
あり先此弘くイギリスと稱せし一是又ゆまれざる名を録しては  
らうせんかの事んは不審のハ

同年月八日入津アメリカ海内ニウ空ア井オルクと云ふより  
仕出し取取日引 取取ウ井ルムステワルト 扱はるり又テワルト後未四  
年不及度地方イギリス所領地より仕出せん取取より一ニウ空ア井  
オルクと北亞墨利加海の内加拿太と云國小島等々地より熱國を  
エ井オルと云イギリス所領地と云英地書おと物ゆらこつ所領地

此ととも教至里介のアメリカ海内井オルクより考つる後考  
りのり此に心算物と悉く印成産物ときけは是安り不化名を施  
一くイギリスの名取取せり多し一取と云指展と云

あまの教至里介にむかへると云  
是の事取人必清今れと云

是ふ富の九

一我書取の云  
二通抄集月

同年月廿四日入津ニカラ取ヘニカラ國の内カルキウツと云ふは  
取取アトウライ取取は取取一取取一取取是の記号も云々人  
ハ并柄と云ふ一取一取衣被之語印成に扱扱おちれ金く取  
是巴根やり 群多くハ伊福利煩る 伊福利煩る 是亦酒  
アメリカ人なり但水走とニカラ人ことと云ふ一と云ふ 標葛刺を大莫  
卧見下一属と云大國ふり一印成記号中と名の要國あり







南年い月國の記言未終片好又印及西德高波迄と再建片

は七教年未幾争し事終りては屆ふべし

一 魯西亜記言被度第一度未片由き

一 去年西國片の處とまりてん中らく後再宿片

一 去年西國片の處とまりてん中らく後再宿片

い年と記形是二人投去年しやく事人ハせし由りれは是高志

風流虫先ひいあはることも大我右のつく、竟改九年以來

文化四丁卯と土年の間右所謂アメリカ船と稱するもの斗りて獅

子舞の如きしれとゆえ伊福利順と云はる事多し其年

の秋と唐太島へ魯西亜人來り礼妨りりとしてまゝ内海

一 一不又記形年の年不東方アトロの燈記ありて是後と是一

て又七海一其船一被又一しは片は由り言上の記と改たを一

文化四年丁卯四月廿七日 曉七海伊王島小其船は津和整を之

を記す不アメリカ國ボストン船あり 廣東(高ありきる) 船記水

を乞ひたり 記記客といふ乗組二十二人水は去りれと六月朔

出帆に又島系後の内届書りて九月申の中刻に此舟をえ

る不より己のニ方りあり三里行り其船一艘見不衣中何ん

をりゆは十り船ハ不足とて是ボストン船の吹戻されりとの記と云

又七海人曰け船南(き)といひ一不西をきしし出帆せり然と

日本あはれをいふアメリカのボストン一船帆せりやと







アメリカ船借文と云事一國事業不同ハ聖利加州ニウエブルク船  
使留也来り居る奴雇ひ来るといふ梅より右におとくニウエブルク  
諸厄利亜の船地をいキリス船を借りしと云一又ニウエブルクの内  
言空アムステルダムとて和名不伝しありと云わ成と云船の船と  
借と云即ちし及ふま一矢と云いあるし一艘イキリス船一一名と云け  
ニアメリカ船といひしるぬ一今年と伝はぬの事と船く近年是  
多き上好の物おあふるといふ也也予イキリス見かりしといふ和  
名係は先か一ト持なき事ありと此事ありトト辨は是不  
言乃十五

れは教條の條もあるしれと云く是は先か一ト止は教條もは後

の北邊もあるト又考へ遠く物ふと物ふト云うと云ふ別をたし  
固より徳意の所法をたし実証をたしと云ふと船は唯是れ和業  
輿地の書を漢人と頗るて地取方位古今は草治丸無度取  
勢公界をたしと云ふつけの物あり船あり少船ハ本勢の所ありと云  
ハ地理考究丸の事あり及し船一ト云ふは四方圓のふハ船ハ和業  
のヤロをたし和船ト云ふと云ふ又云ふと云ふ方と云ふ他事と云  
ひ分國天邦の地理方角所在遠近の事を不案内をたしと云  
彼の内地林島の呂宗何媽港の事と云ふと云ふと云ふ四ノ名と云  
おれこれと云ふ地と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ  
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ



に辨しむるに一區を地界すして考(五ノ)一西洋地方の事ハ漢  
夏百卷の法ありても考究し難し一昔年未だ許(五ノ)和業  
もあれども人の語りて書か因て法(五ノ)大界と云はるるハ  
法(五ノ)一要するに一我を獨自守りて彼の用なきやあれども  
彼を我の志に通せんとするは古(五ノ)されたる是上(五ノ)記(五ノ)  
やく二百年おきて小(五ノ)一

神祖の遠(五ノ)ありしゆに由りてはふと(五ノ)しふ(五ノ)し(五ノ)キ  
間日(五ノ)系と伊(五ノ)利(五ノ)須(五ノ)の(五ノ)為(五ノ)り(五ノ)不(五ノ)得(五ノ)止(五ノ)る(五ノ)の(五ノ)力(五ノ)有(五ノ)ら(五ノ)ず(五ノ)と(五ノ)為(五ノ)る(五ノ)事(五ノ)  
吾(五ノ)日(五ノ)の(五ノ)業(五ノ)院(五ノ)と伊(五ノ)利(五ノ)須(五ノ)とを(五ノ)近(五ノ)國(五ノ)ありて昔(五ノ)より(五ノ)古(五ノ)國(五ノ)の(五ノ)仕(五ノ)事(五ノ)後(五ノ)  
は(五ノ)他(五ノ)に(五ノ)交(五ノ)渉(五ノ)せ(五ノ)し(五ノ)と(五ノ)し(五ノ)て(五ノ)或(五ノ)は(五ノ)執(五ノ)教(五ノ)と(五ノ)あり(五ノ)或(五ノ)は(五ノ)和(五ノ)親(五ノ)と(五ノ)あり(五ノ)或(五ノ)は(五ノ)家

な(五ノ)と(五ノ)し(五ノ)る(五ノ)事(五ノ)一と(五ノ)ゆ(五ノ)に(五ノ)寛(五ノ)文(五ノ)年(五ノ)中(五ノ)より(五ノ)安(五ノ)永(五ノ)の(五ノ)以(五ノ)ま(五ノ)の(五ノ)和(五ノ)業(五ノ)の  
説(五ノ)を(五ノ)集(五ノ)め(五ノ)し(五ノ)と(五ノ)し(五ノ)て(五ノ)或(五ノ)は(五ノ)或(五ノ)は(五ノ)和(五ノ)睦(五ノ)と(五ノ)あり(五ノ)及(五ノ)て(五ノ)近(五ノ)來(五ノ)  
も(五ノ)日(五ノ)の(五ノ)内(五ノ)に(五ノ)國(五ノ)勢(五ノ)は(五ノ)あ(五ノ)り(五ノ)三(五ノ)十(五ノ)年(五ノ)お(五ノ)後(五ノ)に(五ノ)殺(五ノ)害(五ノ)の(五ノ)殺(五ノ)害(五ノ)不(五ノ)利(五ノ)  
を(五ノ)失(五ノ)ひ(五ノ)大(五ノ)に(五ノ)衰(五ノ)弱(五ノ)せ(五ノ)り(五ノ)と(五ノ)あり(五ノ)は(五ノ)や(五ノ)年(五ノ)の(五ノ)風(五ノ)説(五ノ)書(五ノ)り(五ノ)は(五ノ)國(五ノ)と(五ノ)排  
は(五ノ)る(五ノ)伊(五ノ)利(五ノ)須(五ノ)と(五ノ)戦(五ノ)争(五ノ)あり(五ノ)と(五ノ)し(五ノ)ゆ(五ノ)に(五ノ)或(五ノ)は(五ノ)或(五ノ)は(五ノ)日(五ノ)本(五ノ)の(五ノ)使(五ノ)事(五ノ)  
の(五ノ)高(五ノ)船(五ノ)年(五ノ)の(五ノ)有(五ノ)り(五ノ)は(五ノ)状(五ノ)大(五ノ)に(五ノ)あ(五ノ)り(五ノ)と(五ノ)し(五ノ)て(五ノ)或(五ノ)は(五ノ)或(五ノ)は(五ノ)日(五ノ)本(五ノ)の(五ノ)使(五ノ)事(五ノ)  
も(五ノ)排(五ノ)は(五ノ)ら(五ノ)れ(五ノ)と(五ノ)し(五ノ)て(五ノ)或(五ノ)は(五ノ)或(五ノ)は(五ノ)日(五ノ)本(五ノ)の(五ノ)使(五ノ)事(五ノ)  
而(五ノ)も(五ノ)排(五ノ)は(五ノ)ら(五ノ)れ(五ノ)と(五ノ)し(五ノ)て(五ノ)或(五ノ)は(五ノ)或(五ノ)は(五ノ)日(五ノ)本(五ノ)の(五ノ)使(五ノ)事(五ノ)  
デ(五ノ)ル(五ノ)キ(五ノ)ユ(五ノ)ス(五ノ)ト(五ノ)喜(五ノ)望(五ノ)の(五ノ)事(五ノ)も(五ノ)亦(五ノ)不(五ノ)可(五ノ)し(五ノ)と(五ノ)し(五ノ)て(五ノ)或(五ノ)は(五ノ)或(五ノ)は(五ノ)日(五ノ)本(五ノ)の(五ノ)使(五ノ)事(五ノ)  
一(五ノ)は(五ノ)助(五ノ)け(五ノ)い(五ノ)は(五ノ)る(五ノ)不(五ノ)得(五ノ)忌(五ノ)忌(五ノ)受(五ノ)物(五ノ)も(五ノ)仕(五ノ)事(五ノ)要(五ノ)港(五ノ)と(五ノ)し(五ノ)て(五ノ)或(五ノ)は(五ノ)或(五ノ)は(五ノ)日(五ノ)本(五ノ)の(五ノ)使(五ノ)事(五ノ)



く直り交ぬ巴のバタヒヤと云はるるなりたふせ子ラールと云終對有  
て天竺地方廣東日本し交易の大小船を仕出し来りしと船の必要  
の喜望峯<sup>カアプ</sup>を始印は法高僧を奉り上と云終尼ありし時  
あり叔本國もれとく總王もイキリスの因とありと云と云はる  
と子年魯西並設送の漂民もも修をば来連てお遣もめり  
まゝ船通とも七と持合の回るれと総王を橋とありても滅却も  
ありぬれありあゝきふららに何と云ふも因勢大なりと云と  
又も依くあゝふ南付を和漢もろろれも破れ方を看とて  
程と程程と受け迷思一方をぬよとありや道と云くイキ  
スより喜望峯楠葛刺の高波は是と云う則意蘭の侵地ハ  
是

は弁代地が出せしといふは是も何のよめありやと云はる伊程利原右  
の傍もれと交ぬ巴の父ピアと云はる侵奪をいれはれと云今も此和葉  
西に於て年々一く保てる地を要害と云ふも又又知りし  
ありて石押ありし事を容易ありと云ふも是も但し其を以て  
日本の三商船ハ我と信合一と云と程程一昔人セと云はる  
之は共なりと云と云ふ船の船が他の地名を稱してと云はる  
もせしと思ふなり右の程と云ふ船の船が他の地名を稱してと云はる  
之は共なりと云と云ふ船の船が他の地名を稱してと云はる  
昔は來の葉船と云ふ船の船が他の地名を稱してと云はる  
の船通しとも云ふ程と云ふ船の船が他の地名を稱してと云はる



事あり今日より此後いはいあり一官成吐きさうといふといふ  
彬々自國の美一一人情をむるをばれといはば次あり和事来えより  
小國といふ他の法大和とい比肩一又夫の中力も開拓一  
く我力とせし地も多く世俗の房格概代わ考さうといふ  
に盛衰倍取時運の止む一に西なり是と欲とあり味方とあり  
一と裁行度といふるとあり一とやわれ又甘路をばれといふ  
く包みくしとさるる國多し人支と檢の隠にんやと思はるる  
近東を傍へ入しき船ともの来り実とイキリスとありと知あり  
ゆきぬると思はるし是は日持あるの何代元上き事小ありといふ

問曰伊祖利頂いふあれを和事とまひ我日中へ向し人事以欲もや  
答曰是か件かいつは彼が事あり一と和事の印度諸高波とわき  
奪ひし事以和事志の論なり是所をばれを原わの人情印  
波の法高波と奪ひし一上とハヒアを侵えんとんハヒアを和事高  
形日中へ仕出地ありい比言易の事小入疑きを以先も道洛をぬ  
んとん是所し印度高波に後か才及つあり是所をばれ  
日中の和事高波をともこる事小入とくあり一我人情もてと  
和事小欲さる志あり一他の國の形も地をぬく一とわかとい  
と人彼もさるい情ありとありとありとありと一カラハ大莫財  
鬼の地ありと申し和事高波あり陸もさる侵して我有とをばれ











御覧ふ或とて軍形多うやと空懐牛又換いき取置りくく乃  
此等死途うへに哉と申すも免許かしむられといひう使言し  
ノットテ水引をもく信も信も人必整へ居者おと費くし来りて  
この失徳は神附しれも候お肯んせん経念ニ三人を男一と  
彼等船に安様お本取とイキリス某の渡り口一を一といひ控り  
と才と彼邪性思し一はあり日ありて付受るも渡りぬも子  
細とぼれんれとまに國にお出合くてもと夫が妻め彼を討留  
しとる死を討らるの誓書してんえ来多う娘子たり三人と付し  
斗を軍形に多うありといと教ふしけりか一志をとも彼力とくと  
御しとれとてふもく畏敬匍匐と事とてんもり彼勇悍は堅

らるイキリスといとも魯西亜の爲おとくを彼一は狂威えんか  
おひの死傷なれと何事かしれ魯西亜の令と少く事とホ一  
又事ありハイキリスとた取を一しめの彼もお及ふりめきをあふ  
三一も候お合さるめきと防我を殺る一伊宿利近幸  
我方を向ふしたり魯西亜の志を助るもくとも物りけ國一旦  
我心様しあめられと遠さく一近づくうに水をとるふ  
といひ信んたやといふも取おと夢油形あき候おありく又七  
傍まはの異船も遠く内吹味とく候しきりありて候も遠く  
扱ふもなきあり但被お詳お知くも亦まありたき子あり  
彼ら申口といく引高とさうに取れとよ一拂いと易一と



一く事おんふむくこと知る人々彼れと皆遠く遠く  
ありて志を正し役急おせざる国俗とせられし事一物  
君之公疎滯ありて事急お及り麻を誣とも及難くんは事余  
儀を少の事あれとも天下の三才運各土の地物をたふさ  
物て致るを愛おあつて用あり侮く信一正んは事とて  
かの道もありんく遠きこと遠きこと國家の大小も  
遠く我國と四角い海を交する地あれとも不冠不備  
オ一す一若ありとして今ありてふらん易にいて  
とりの教あり人宜く是と知りて方西の和業の言ありて  
吳朝の地理方位を近と各國の治乱無敗兵威の強弱  
古今の異同ありのれども知らずして不虞の行ては  
狼狽なる事ありて一昇平日久しく士民安佚小月を  
今抑る魯西亜の介封ありとも抑く我武を尊ぶの  
を誇り我を憐れむはとやふ一世の道とてとき茶地  
とも我義者威を平の化を戴く人事成りて年代事  
伊程利源の来由は同存ありんるも我を捕へ空  
後後僻説を言連ねるも吾りえり死後天子の  
りと云文化丁卯の夏知記の中お慢りお取  
按スルニ是之仙臺ノ大槻磐水カ所著ナリ今  
未定ノ稿ヲ得テ爰ニ繕寫ス從來邦人輿地



覺ヲ講セス故ニ毎ニ其蘭表ノ欺詐ヲ受テ  
有察セサル者多シ磐石斯ニ見ルテ有テ此  
書ヲ作テ一考証辨明ス豈感賞セサルヘク  
ニヤ近來醫ノ蘭ヲ學フ者多クハ國家ノ  
大體ヲ知ラス動モスレハ葦ヲ以テ表ニ變セ  
ルコトドス未タ鷗齋磐石等カ如キ者アルコトヲ  
聞ス

又後篇一卷アリ今併テ左ニ録ス

### 捕影問答後篇

或問曰伊在利須國の事是業不臣下物ハ後より西氏はくも  
そ夜の如くある時々永く後人の志ありとんありてうたひたり  
頃頃く去ル八月十日辰刻七時湊沖小白帆又ハ遠く  
西の江をあり南秋とて西の院に入伴ふればハ西の院の延原ありん  
と遠く江をヤルルを其控役の人其申立る西の院人二人石具  
如例旗合のち山道ハ彌遊をよたたくて近きハけり  
の西の院の旗及半一物ひさき西の院の旗下丸旗通  
セリ是れを記して使咄也仕出ハの由石毛浩くヤセハ  
後人とセハハ石毛記しつて其子をおろハ控役人下りて西の人















此船又華船と然あり取あつた打はし船がれをともふりて  
伯もふもはれを怪しむきり是を中口のとくからん  
引り子ぬあつし子ぬをて我も海へ船を入謀計を施し  
も保し如く行ふ事陰公捕へ拷問し漢力以采早りて志は下  
要る公よりまより事母し日中一争し名と事なきれは  
欲人強く我を合料と乞ひおとく臨時の机智を思ひ  
あ人より厚き推量よりふれ行進お彼おと巧に謀り不あつく  
種を計策を及け来りしあつし我も我國も武ある兵  
あり我もあつ何を彼く取さぬく多にる公は人や彼國より之  
を知りあり御りおは方きてとて扱ふ及んされを彼りおんとせり

而も意の多く連し割れ難殿の合料よりを更伯帆や彼國より  
理ありの而も公のあつんとて海東の上と時あり一宜し高し  
夫この事に至る計を善く来りしあつし一確は公用り及ん  
る帆せしりあれを我國を咎笑しし侮りし誇りし一是意は  
彼國人のこあ人もあつし世界へ之を傳へあつしあつしあつし  
あつしあつしの取厚し上や方一き討りし七勝の漢と吳國船と  
初つ岸を要害の地武備を卒に是の地ありて後世のきて  
初つ岸のあつし乃始ま公人より代の沿海の地急卒の糧糧取て  
初つし一何れも日にお武ありし一強とあつしや他と始しあつし  
先んては西西より傳はせし云々といひ今年といひかろ弱國福











高て橋間をきやそ魯西垂未始内元上るもの始末你等々を原ふ  
出る一と流り又少地の礼女日本人情敷一と備を立寄れ  
を行人又を極威ふとまて和を降せり汝等とをばやうる  
あつま一明かお是ち公白状也一と改もろろ人々日本人に  
てら給るべきれを一詳おをを先よまを吐き人と並ちお死教  
一出高を焼付ふと一かほいといふ人々是魯西垂の礼女  
交まの交をとりふとも別んは地へ入りゆをえとせり一と魯西  
垂右にせせんとの意あつ一と是皆理ふてのふちれと日本の  
者取之と何ひ知り及討人と備えさるし計られんとり言ふ所  
て倭内をえり倭の根子を白ひ一と是の和を棄の太弱を

狭き倭内り隠一他へさるを彼國より知る可やれと橋を造  
るの致を固すのこをやう一とさて死る形もかく又まよひ人々を  
大男成ほしれをまたりふ群をくは橋をえん及れら若かりて  
加比丹言上せ一橋ははるのやん棄人の橋間を造一と條を  
日本に傳ふる可あぬいふ言上せぬと物も取の力有と  
倭ふへもと忽知するふれを何を橋を造けるは妻め又物を  
をよるの通舟おえと止むらんや呪悪く彼ら御中み備りて  
る情の交はれさる一と何れせ一のはき出りふ一とは彼等  
子氣の矢物とあらんゆに情とよふ中か一人の私をの意慢  
と悔く得る事なれと喰は上の預けに某あまわ



問曰素人そまを言ひせんと物事あり

答曰は事既ふ不備の物に後多かる一因ふ実從ふき後編  
をれとし今おむりてい余る物ひ一不備の合せりといとんは相ふ  
むりも業も包れ包まれり時良ふ来とやよ一し捨ひ後  
物成るやふお備も物多かり圓の業ふるとの圓掩ふ  
て圓の業情ありまお就くを教奉の万般の者も大小且他ふ  
託せ一夫社の名候一入りるイキリも船船も先役のものとし祀  
よく風説書及上し上るれも今更ふ状に時と我ま人のこか  
らん圓人一統の意言とあり又彼ら意おねても皆はすはに本國  
の福とやう人思む一といふひある彼是の後事をいふは業

て福ふ海帆作舟れら彼も我も難ありとやまうらう一我國  
よか一まをいふ人とてはもはくく彼お款せんといふお款一  
難一情ありしし不便く持なきとていふてあり

問曰是下りゆく物も果して事と下又今物上りて悉くも及く一  
ゆかあさるしゆくは中れといふ大遠るれ物づく預防とて  
國おたしく利えとく扱なきし強とて思はるの要言ふ少後了  
一まお彼敵徒お究一むとんを要一内やと武と語り兵  
詳一た平花情の流弊を改めむといはけりて是れは困一  
くかて防き彼ら前を定て是つ兵は右は天下の上風を扇を  
計も一但莫くと彼ら實心知く之は存人事と欲んを







是れはめづるものありて我れも你等と情まゝ人若万有あ  
事ありしむしと生れ安んずるべし一にさるるありて必ず  
心神をさるる事ありて

右一係

ねんては世界の恥ぢをたふさす政経巴沙のそとに百万餘年  
業音西無陸大と極遠の我れ隣境も極遠の事  
まづ御我れ東山の原の公に侵掠あり及ん流すやと十年あ  
吉かひ入へし一虎知りてとありて要言油部ありしと  
内所なりし一に我國の善徳を志すもの原情照切あり  
とよふ一をそな後まゝのまゝありしとありしを

彼我と我れとのさしと隣誼を修め是を易と志人とも事教を  
お及い遠の去り五年の兼助の望く往來をさすものありし  
はわらわく彼れも是をあるべきや彼れも往來ありて我れは  
拒むるしと往來さす下も此に我國よりさすて往來さす  
あれは彼れ之を怨み或は和氣の往來ありて以て你等とま  
障りく止しむるは極む情むしもありんことをわが地の好  
ありしとさるる旨の志の事おもふありしとありしと  
の情書を東疆の志の事おもふしては情を延くお記しし  
まよせらぬイキリス國と極く何事ありしは彼國の左祖を  
さると物もふしありしとさるるの記しつけてもイキリスの信を必



も美と爲し一丸ある事ハ多クヤと爲し不似し將に我を  
みんが詳めせよ右杖と我の事

右二條

于國近未イキリスより勢を奪れ今ハ本國を弱し是ハ印が  
陸西の諸國に侵掠せしれ遠ハ高船の及し後七喫酒也  
のハタヒヤあるのこみしと勢を去徴とありしと事事  
京し都下より約せし事事と以て仔細  
之ハ先ん是も國人とありてハ他國ハ勿くありてありん  
そとけりも後ヤも且今も本國と類廢し彼強威ある者  
西典拂郎東洋厄利無等の所ハ交連已むるを以て

月と星彼とセテ多し一是星のさし多し不かり多し物も道  
年本國は也一の船と稀もも海入はの内アメリカ船と  
の船又アメリカ船は傍り多しとふしる又格別名は  
るる船の入津もた空一多しとけりの上怪むきし多し  
我は心ありも皆名を異しして其をイキリス船かと  
ありたりや二三に從ふきも船にありたり彼の國の表ハ  
るい字あり押してニヤカタラ仕出の志も組合せ或も本國船  
みんがし編まきりておよくハ本國に代て交易を以んと  
そらもれ信を固よりも宿意が志しととも彼國の  
輩人ありと又我信止の國名も其の事也之を以て明ケ



りおとせしに東を以てしめけしあふハタヒヤハ大客を  
招かんふの事なきのく夜よく忍びひそげ言上せしと  
知れし我とをを寛容して深く怨れを討たしとい人  
情といひやむ事をばはるるを人といひやとありぬる  
今度のイギリス船の始末をえく物ひもかく問番へ民衆  
は怒と彼を吞せしむ隠さんといへも隠さんといふの  
のあまのふかき事なり今け朝り船が國の恥と捨て明  
おこを隠り若よけ上る帆のすゝあきけを掩ふくも又  
あきゆあれそイギリスのまのふかき事なりむとを  
ロイヤイギリス我國へ往來を欲するの事あり候事あり

さう不えのふかき事なり我國よりとを裁断とぬお  
りありに國殊に俗異に性情をばせし且文字言語を通せん  
能く事情を通せんともなすしとてむとをばせしと  
そるとえと差異あり差異あるも其をばせし我は成程  
知りて彼おまをせんとしるるあれと候事今日候事なり  
しとも彼と城を同ふしと我國より往來ししとれしと  
彼まの希原を不と考ふしと候事その考ふしと  
不とい洋を我を先する事なりとて彼を國を必しと國と  
そむと増と物人ある事なりと日ありて候事あり  
候事ありしと候事ありしと候事ありしと候事ありしと



さるる之—あんなに保ちも又た其おんといふは—  
あつたやれともえをいふ本國の他を遣入るを伴り  
又通者のつらまゝくおれと人事を通人とてあつ—  
死といふも今おめて何そえは捨ふき不如明の事  
まゝを我り若人おとそ我國永住ともあきた運が  
通ハあり

右三條

いながらおやまらんや口のえ上をいきり人のおまとい思をれん  
と何めのおをまのやくせば—とよおは遠くて別ふ名とせり  
おやまといふやま—といふか比其ものものを上階にて

一 祿はなほ未承り—軍配の始末お後の話意とそ考あつたおま  
とま人を携わ—ま同い—本意とお梅のいふお思とおあ  
をいふ始くおお思—あつたおま—

一 百人の草あは拷問せ—もの取—必んそま同のつら我が魯西無(第)七  
るもあつ—

一 五十年おれお後日本お懐—と後のあまいあまい—  
とら同—とらつ—

一 我圃のまきえおれおのまき

一 けおは四の—おはあつた—と聞かぬもあつ—  
せ—おのステワルトのおまもあつ—や



- 一 何を凌ぐが事なりーや事船は披するおらあふらん
- 一 シカラより仕出せー勿りきりバタヤより事船は帆せーとりふ
- 一 幸に便りあては侍へ返来りーやけ取高取おぬん戦争の
- 一 むお八ヶ月お能と本國を救せーを
- 一 作舎のこ敬としくあまて船せーく又おおれ敬も亦ととてん
- 一 げんおのイキリスアロシヤの船も洋おあつれらんロミアとイキリ
- 一 スとは一返あふとあらんやー
- 一 今度の奸計かり洞さけとくあるにーおと巧も弟の船も
- 一 ありーや
- 一 一國とイキリス戦争の中未だ由附あつた成之妻のら流

右に條

你等今あぐえ言は告げし昔に船は来見洋ありーヤニヨウ  
 スう渡海の中怪しき思取ん高事て地屋愛のゆえん  
 せし事いほを返せーと御せせー二百年来のたすはし進路と  
 くるあむさる事お思ひゆられ又即今你おうちまふも感さる  
 ありん是道你等々急務と物思ひーをも知るるり船  
 唯ひとし我とロミアイキリスのゆえあらんはるし下むあ  
 めく思ひあはしげお能い事ーて人の方己うおり事と  
 遠さけ事と思せーあつて是うお務おせ及路ー遅目の能  
 道理は在し且通弁あせー早く國を受人格あつて謹



一 解分の老を標に或は孫一或は悼に甲乙とけ事よ及びして  
一 他の雑注より注し後々後々不何を及し採りたありて可なり  
一 是我倚草莽野人の端を不不此るん固よりあると作し圖  
一 かにふりあふ思重年坊一 世の程あり思を思ひはけは  
一 ういふ末の七月十二夜の氣の宵三坂山の八つせふと云境の  
一 ことより事と止む

一 此の書は...  
一 此の書は...  
一 此の書は...



